

TRANSITION TO HEALTH (094)

“ 新型コロナウイルス感染 ⑳ ”

～ 基礎疾患を持つ人は “ ワクチン を 打たないで！ ” ～

はじめに

新型コロナワクチンの接種が、“医療従事者”から“高齢者”へと進み、今後、さらに職域（企業）、大学へと進んでいくようである。私が案じていた通り、“高齢者”への接種が進んだため、「ワクチン接種後の死亡事例」の報告が徐々に増えてきている。6月9日に報告された『新型コロナワクチン(コミナティ筋注、ファイザー株式会社) 接種後に死亡として報告された事例の一覧(令和3年2月17日から令和3年6月4日までの報告分)』に基づいて、少し考察してみよう。

基礎疾患を持つ人は “ ワクチンを打たないで！ ”

6月9日の報告一覧(令和3年2月17日から令和3年6月4日)によると、196名の日本人がワクチン接種後に死亡していた。“約8万5千人に1人”がワクチン接種後に死亡したことになる(丸山算出)。前号でもお話ししましたが、従来の“09パンデミック”以前のワクチン政策の基本は「ワクチン接種後『30万人に1人の副反応死』は許容範囲・OK」であったが、今回の報告では、その3倍以上の死亡率「8.5万人に1人の接種後死亡」となっている。

◆ 令和3年5月30日までの死亡事例139件の評価結果は・・・すべて『γ』

令和3年2月17日から令和3年5月30日までに報告された139事例を対象にした専門家の評価結果について見ると、全例「情報不足等によりワクチンと症状名との因果関係が評価できないもの」とされる『γ』であった(右表:報告書より転記)。接種当日、帰宅後に亡くなくても『γ』である。

因果関係評価結果 (公表記号)	件数
α (ワクチンと症状名との因果関係が否定できないもの)	0件
β (ワクチンと症状名との因果関係が認められないもの)	0件
γ (情報不足等によりワクチンと症状名との因果関係が評価できないもの)	139件

◆ 接種後1週間以内に146名が亡くなっていた

報告書の『新型コロナワクチン(コミナティ筋注、ファイザー株式会社) 接種後に死亡として報告された事例の一覧(令和3年2月17日から令和3年6月4日までの報告分)』に掲載されていた196事例について、詳細を見てみましょう。

右のグラフに見るように、接種当日から6日後までの1週間以内に74%にあたる146名の方が亡くなっていた。接種の翌日が36名と最も多く、その後減少している。しかし、なんと接種当日にも19名もの方が亡くなっている。接種直後に発生したアナフィラキシー・ショックを救命し得なかったわけではない。その後に具合が悪くなり、その日のうちに亡くなられていたのである。亡くなられた方々のご冥福を祈るばかりであるが、彼ら彼女らは決して“余命1週間”などと宣告されていたわけではない(であろう)。無念であるが、ワクチンという薬による「不慮の事故死」「薬害死」ではないかと、御親族は“接種を勧めたこと”を悔やんでいるのではないのでしょうか。



グラフを見れば誰もが気付くと思いますが、自然死・老衰ならば、持病の自然経過であるならば、接種との因果関係が無いのであるならば、グラフは通常、ほぼ平均化されているはずである。ところが、明らかに接種後一週間以内に集中している。

◆ 死亡原因は心臓血管疾患・脳血管疾患が多い

接種後死亡事例 196 名の死因を見てみると、一番多かったのは心臓血管疾患 82 名で、次が脳血管疾患 38 名であり、いずれも血管病変である。消化器疾患 13 名、肺疾患 12 名と続くのだが、消化器疾患も、腸の血管が関与した病変であった。肺は言うまでもなく、毛細血管だらけの臓器である。

◆ 死亡事例の基礎疾患について

次に、死亡事例の基礎疾患を見てみると、一番多かったのは心臓血管疾患の 48 名で、次が高血圧 38 名、そして脳血管疾患 23 名、糖尿病 22

名と続く。5 番目が腎臓病の 13 名、6 番目が肺疾患 11 名であった。

死亡事例 196 名の 90% は、ワクチン接種により「持病・基礎疾患が増悪・悪化」した可能性が大にあると考えられる。ワクチン接種が「原因」で

あるとは言い切れないかもしれない、しかし、“少なくとも「誘因」になっている”と言えるのではなかろうか。

◆ 基礎疾患のない若年者でも接種後に死亡していた

右図は、ワクチン接種後に死亡された方々の「『死亡までの日数別』に見た『年齢分布（最高年齢—平均年齢—最若年齢）』」を表したものです。死亡された方々の平均年齢は、“医療従事者”から“高齢者”へと接種が進んできたため、平均寿命に近いと言えるかと思われます。

ここで、若年・壮年で亡くなられた方 6 名について見てみましょう。

1 回目の接種の翌日（1 日後）に亡くなられた 46 歳の男性の死因は、「基礎疾患なし」でありながら、「急性大動脈解離」「心タンポナーデ」でした。2 回目の接種の 2 日後に亡くなられた 55 歳の男性は、高血圧・脳梗塞（バイアスピリン内服）の既往があり、「急性心筋梗塞」による「急性心不全」でした。2 回目の接種の 3 日後に亡くなられた 37 歳の男性は、花粉症はありましたが、「心肺停止」を起こしたのでした。1 回目の接種の 4 日後に亡くなられた 25 歳の男性は、基礎疾患はありませんでしたが、「精神障害」を発症し「自殺」されたのでした。“4 日後死亡”のところでは、この 25 歳の男性の他にも、若い 26 歳の女性も亡くなられており、「基礎疾患なし」で、1 回目の接種後でしたが、「小脳出血・くも膜下出血」を発症したのでした（報道されていた）。1 回目の接種の 5 日後に亡くなられた 26 歳の男性は、「片頭痛」持ちで、ベンゾジアゼピン系の睡眠薬を併用されておりましたが、「心肺停止」を起こしたのでした。以上の 6 名の方々は、平均寿命には程遠く、「自然死・老衰」、「持病・基礎疾患の自然経過」とは言えず、ワクチン接種が直接の「原因」となったか、あるいは、「持病・基礎疾患を悪化・増悪」させる「誘因」となった、と考えられるのではないのでしょうか。

◆ 痛み・頭痛・発熱・全身倦怠感「副反応」だが、「死亡」したら「副反応外」で「因果関係なし」

アナフィラキシーや腕の痛み、頭痛・発熱・全身倦怠感「副反応」として扱われるのだが（厚労省副反応研究班）、死亡してしまうと「副反応」としては扱われず、当局（副反応検討部会・安全対策調査会）により「情報不足等によりワクチンと症状名との因果関係が評価できない」として『γ』と判定されてしまう。右図は、はじめにお話した「死亡日までの日数別人数」の図の縮小版であるが、実は、翌日にピークがあり 1 週間ほどで治まる「副反応のパターン」と“相似形”になっている。死亡しなければ全ての症状は「副反応」で、死亡してしまうと副反応ではなく「自然死」扱い、「因果関係なし」=『γ』と判定されるのである。

「接種後死亡=副反応死」は「最大のデメリット」であるはずなのに、メディアに登場する感染症専門家は「接種後死亡」をデメリット（副反応）と考えていない。実は、安全性が確認されていないワクチンの接種を勧める行為は「犯罪」として、今「コロナ・スキャンダル」（千人の弁護士・ジャーナリストと 1 万人の医師らが告発）の裁判（独）が始まっている。

おわりに 基礎疾患を持つ方は、ワクチン接種は慎重に！ 自分自身で決めて！ できれば、“打たないで！！”

ワクチン接種後死亡者の死因と人数



ワクチン接種後死亡者の基礎疾患と人数



ワクチン接種後死亡者の死亡までの日数別年齢分布（最高-平均-最低）



ワクチン接種後死亡者の死亡までの日数別人数

